

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3790600021
法人名	社会福祉法人津田福祉会
事業所名	グループホームさわやかハウス
所在地	香川県さぬき市津田町津田2205 (電話)0879-42-1180

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年8月21日	評価決定日	平成21年9月15日

## 【情報提供票より】(21年7月15日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成20年11月11日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	9人, 非常勤 0人, 常勤換算 6.9人

### (2)建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1階建ての1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000円	その他の経費(月額)	無	実費
敷金	有( )円	有りの場合償却の有無	有/無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( )円	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,000円				

### (4)利用者の概要(8月21日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.7歳	最低	80歳	最高	95歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	さぬき市民病院・阪本病院・桑島内科医院・合田歯科医院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「さわやかハウス」は瀬戸内の島々を遠景に見渡すことができる高台にあり、同一法人の老人保健施設など各種施設が併設され、総合的な介護サービスに取り組んでいる。昨年11月に開設、有料老人ホームと隣接しており、日常的に連携し協力して支援している。木の香がするハウスのホールは居間兼食堂になっており、吹き抜けの天井には夏祭りを間近にして手造りの提灯が飾られている。調理場が隣接しており利用者は気軽に参加できる。看護師が計画作成担当者で入居者の健康管理に配慮している。管理者や職員は、運営理念の「いつも明るい笑顔であいさつ・声かけ」を実践している。家庭的な雰囲気、その人らしく、地域に開かれたハウスを目指しており、今後が期待される。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	初回の訪問調査  今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)  管理者を中心に職員の経験を踏まえて意見を出しあって自己評価を作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)  地域住民の代表・利用者・家族・市町村の関係者などの参加で過去2回開催している。事業の運営報告や行事計画など情報交換をし、地域に密着して開かれた事業所に向けて取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)  玄関に苦情箱を設置し、家族が来訪した機会等に意見を聞くようにしている。「さわやかハウスだより」に、行事計画や情報報告、個別に介護職員・看護職員が日常生活の状況を書いて毎月送付している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  ハウスの設置場所の関係もあり、地域住民との日常的な交流が課題となっている。防災対策など緊急時の地域住民との協力体制の確立や、運営推進会議に地区のボランティアグループのリーダーの参加要請が検討されており、今後の取り組みが期待される。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		<b>○地域密着型サービスとしての理念</b>			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	同一法人の理念として、「利用者の尊厳を支え、ノーマライゼーションを推進します」「ご家族との連携をつよめ、地域に開かれた施設運営をすすめます」「いつも明るい笑顔であいさつ・声かけし、家庭的なサービスにつとめます」など事業所の運営理念となっている。		
2	2	<b>○理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念はホーム内に掲示し、職員はミーティング時等で確認し共有して、日々の支援につとめている。	○	親しみやすい言葉で「さわやかハウス」独自の理念をつくり、全職員が共有して支援サービスに取り組むことが望まれる。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	<b>○地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地条件もあり日常的に地域との交流は困難である。	○	地元の小学校との交流や地区の運動会に参加、学生の訪問を受け入れるなど、積極的に地域との交流に取り組んでいるので、今後活動の広がりに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	<b>○評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設して1年未満であり、今回は職員の意見を踏まえて管理者を中心に自己評価を作成している。	○	全職員が評価の意義を理解し具体的に検討し、サービスの向上に取り組むことが望ましい。
5	8	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度2回の開催で事業報告や行事計画など情報交換や意見が述べられ、支援サービスに活かすように努めている。	○	運営推進会議の会議資料を家族に送付しており、運営者をはじめチームで地域に開かれた事業所としての姿勢が見られるので、今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業の運営に関する疑問点など、市に出向いたり、電話で問い合わせるなど指導を受けるなど連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「さわやかハウスだより」に事業報告と、担当の職員が個々の利用者の日々の状況を書いて家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書に明記している。家族の運営推進会議への参加や、訪問の機会等に意見や要望をきくようにし、職員会で検討し運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力抑えるようにしている。運営方針で隣接の施設との兼務が多いが、相互に協力して質の高い支援サービスが提供されることを期待したい。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の方針により内外の研修会への参加を積極的に呼びかけ、勤務調整や研修費の負担も考慮されている。研修後は報告会で全職員に伝達している。「良いところは見習おう」と全職員がスキルアップに取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の必要性は認識しており、外部研修等の機会には同業者と情報交換をしている。	○	県グループホーム協議会や市介護保険課の協力を得ながら、相互に事業所訪問や勉強会を検討しており、今後の質の向上に向けての取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族と共に見学や同一法人のデイサービスやデイケアと交流するなど、利用者や家族と相談しながら馴染んでもらうに工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や清掃・洗濯などを共にし、利用者から学び支え合う関係に努めている。利用者と職員が家族のように会話が交わされて微笑ましい場面が随所に見られ、家庭的な雰囲気である。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人や家族から生活歴や意向をきいてケアプランを作成しているが、入居してからは個別に担当者を決めて把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、できるだけ家族に参加を要請してカンファレンスを実施し、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。	○	個人ファイルに日々の状態が詳細に記録されているが、目標と成果が明確に把握できるように記載方法を検討し、支援サービスに活かすことが望ましい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月毎に見直しているが、利用者に個々の担当者を配置し心身状態の変化や意向により、随時計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望や意向により、法人の施設と連携してその都度柔軟な支援が行えるように努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に看護師が受診介助して医師の指示や指導をうけて、利用者に対応をしている。必要に応じて家族に同行を依頼して適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所は重度化した場合もハウスの生活が継続できるように支援する方針で、家族の意向を反映しながらターミナルケアの実施に向けてチームケアの大切さについて勉強会を行っている。	○	法人全体で、統一したターミナルケアに関する方針を提示し、研修会を実施する予定であるが、ハウスとして重度化や看取りケアの明確化とケア体制やマニュアル作成を全職員が共有し話し合っ取り組むことに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個々の利用者にプライバシーに配慮した言葉かけや支援に努めている。個人情報の取り扱いについて周知徹底を図っており、鍵付き書庫の設置を検討している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ハウスの1日の流れは決めているが、起床や朝食時間を本人のペースに合わせて、その人らしい暮らしの支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意向や力量によって声かけし、食事の準備や片付けなどを職員と一緒にしている。食事を共にして言葉を交わし楽しい雰囲気になるように努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回程度の入浴支援をしているが、定期的な入浴日は設定せずに本人の体調や要望により入浴してもらい支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴や力量によって家事や洗濯物たたみ・手芸などをして過ごしている。隣接のホームと合同喫茶や七夕会など日常的に交流し楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の行事や景勝地に事業所の車両で積極的に出かけている。特に外食は好評で利用者は楽しみにしている。個々の外出支援は家族に頼っている現状である。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	3カ所ある玄関は離棟センサーを設置して午前8時～午後8時まで開放しているが、不穏状態の利用者の方がいる場合など施錠をする時もある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の職員連絡網は掲示している。消防署の協力を得て、避難誘導や初期消火訓練を計画している現状である。	○	災害時に地域住民の協力が得られるように、運営推進会議で働きかけ、マニュアルを作成するなど具体的な対策に取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みを取り入れて、管理栄養士がメニューを作成している。食事や水分の摂取量を把握し、嚥下困難な方には粥食やトロミ剤を使用するなど配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ハウス中央の食堂兼居間は、吹き抜けの天井で明るく、入居者と制作した手造りの提灯が飾られ、テレビのコーナーには座り心地のよいソファが置かれている。調理する音や匂いを身近に感じることができる家庭的な雰囲気の共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	花の名が個室の表札で、出入り口はのれんが掛けている。大半がベッドであるが、好みに畳を使用している利用者も居り、使い慣れた調度品を持ち込んで、その人らしい居室になっている。		